

TAIYO KOKI

One machine, One answer

第**39**期

BUSINESS REPORT

2023年1月1日 ▶ 2023年12月31日

株式会社太陽工機

証券コード **6164**

企業理念

私たちは、
先進的技術を駆使した
製品を創造し、
精密加工を通して
世界の製造業の発展に
貢献する

経営方針

1

内外の法令を遵守し、
フェアな企業活動に徹する

2

イノベーションを追求し、
最先端の技術力と提案力で
社会に貢献する

3

企業価値を高め、
顧客、従業員、株主、その他の
ステークホルダーに報いる

株主の皆様へ

To Our Shareholders

売上高は4期ぶりに100億円を突破。
海外拡販に注力し増収増益を目指します。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年度の工作機械業界は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和による経済正常化や供給制約の緩和を背景に景気回復への期待が高まっている一方、長期化するウクライナ情勢に伴う資源・エネルギー価格の高騰などにより、先行き不透明な状況が継続いたしました。

当期においては、ドイツで開催されたEMOや中国でのCIMTへの展示会出展を通し当社製品の技術力をアピールし、海外での認知度向上と販路拡大を図りました。国内においてはGrinding Technology Japanや4年ぶりの開催となった太陽工機プライベートショーを通して、新たなお客様層の拡大や、受注及び引合いの獲得につなげてまいりました。

当事業年度の受注高は9,646百万円(前期比20.2%減)、売上高は10,231百万円(前期比13.2%増)となりました。利益面では、営業利益554百万円(前期比10.8%減)、経常利益561百万円(前期比10.0%減)、当期純利益415百万円(前期比5.7%減)となりました。

当期の配当につきましては、中間配当25円、期末配当25円の年間配当50円を実施することとなりました。

2024年度につきましては、日本工作機械工業会では、2024年の工作機械の年間受注額について1兆5,000億円になるとの見通しを示しており、年前半は欧米での経済減速に伴う設備投資の様子見から受注の調整局面が続きますが、年後半から半導体やEVなどの需要の増加、環境関連投資の増加に伴い、緩やかな回復局面に入る見通しです。

当社におきましても、受注については、年前半は調整局面が続きますが、製造現場の人手不足や省人化需要を背景に年後半に向けて緩やかに回復していくものと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2024年3月

代表取締役社長 渡辺 剛

コロナ禍からの回復の兆しと市場からの根強い設備投資需要に支えられた2023年度の工作機械業界。売上高を再び100億円台に乗せ、今後のさらなる成長が期待される太陽工機の渡辺社長への取材を通じ、新たな事業戦略等についてご説明します。



Q1

決算のポイントや据付地別の状況など
2023年度の総括をお願いします。

A

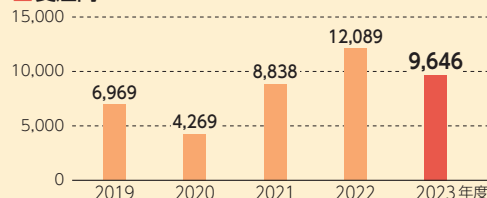
売上高は、2019年度に続いて当社創立以来2度目の100億円超えを達成することができました。お客様より多くの注文をいただいたこと、また社員の頑張りによって生産量をしっかりとこなし、この数字を確保できたことを率直に嬉しく思っています。

受注面については、国内市場で2023年度下期に設備投資の調整局面が強まったことがマイナスに影響しました。他方、海外市場では、当社がお付き合いしているお客様は依然として積極的に設備投資する状況にあり、海外受注台数としてはそれほど大きな落ち込みとはなりませんでした。その結果、2023年度の海外受注比率は44.9%となり、前年度から7.7ポイント増加し、日本の落ち込みを

財務ハイライト

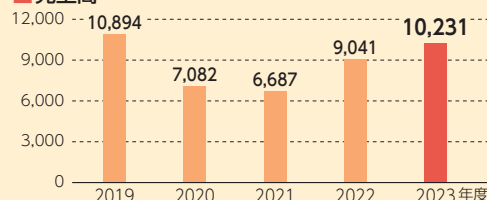
■ 受注高

(単位:百万円)



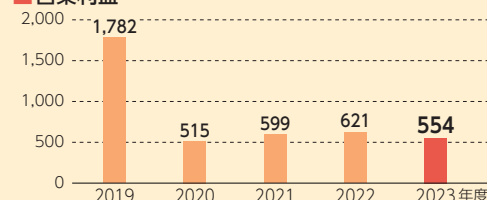
■ 売上高

(単位:百万円)



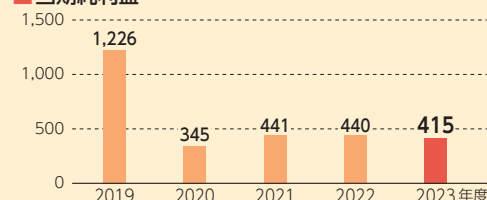
■ 営業利益

(単位:百万円)



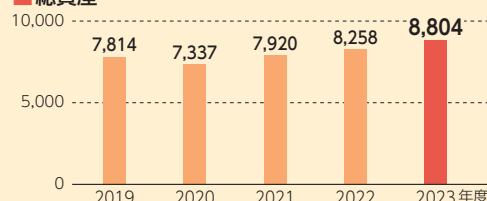
■ 当期純利益

(単位:百万円)



■ 総資産

(単位:百万円)



(注) 金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

トップインタビュー

カバーする形で海外が受注全体の下支えとなりました。この点に関しては、我々が粛々と取り組んできた海外向けの営業活動や現地スタッフに対するトレーニングが、ここに来て1つ結実したものと手応えを感じています。

利益面については、2022年度に実施した価格改定が反映された機械売上が限定的で、原材料費の高騰と初任給及び給与水準引き上げなどの人材への投資分を吸収するには至りませんでした。なお、2024年度は2022年度に実施した価格改定分の効果が全て実現する予定です。

Q2

今後売上を伸ばしていく上では海外販売戦略が重要になってくると思われますが、今後の海外戦略についてお聞かせください。

A

まずは、欧州・米州・中国を重点地域と捉え、その3地域に足りないリソースを補っていくことを目先の施策として考えています。その一環として、2024年1月末に今まで当社駐在スタッフがいなかった地域である欧州(ドイツ)へサービススタッフの駐在を開始しました。春先には営業スタッフもドイツに駐在する予定です。

そしてこれら3地域に加えて、インドも成長が見込まれる重要市場として考えており、今春に営業スタッフのインド駐在を開始することを計画しています。現在の当社では、インドでのユーザーはまだそれほど多くはないのですが、潜在的なユーザー層を大きく秘めた国であると考えております。インド市場の開拓のために、まず現地に当社の専任スタッフを配置し、引合いをタイムリーにこなしていく体制整備に取り組んでいきたいと考えています。そして今後、

インドでの受注台数が増えてきた際には、それに呼応する形でサービススタッフや人員の増強を機動的に展開していきたいと考えています。

Q3

次世代型の大型立形複合研削盤の開発を発表されましたが、製品開発の現状や今後の方向性などについてお聞かせください。

A

製品戦略の大きな方向性として掲げている「円筒研削盤市場の開拓」「汎用機(エントリーモデル)の強化」が、それぞれ順調な進捗を示しています。

「円筒研削盤市場の開拓」では、引合いも順調に増えてきました。今後は製品のコスト管理を行い高いパフォーマンスを発揮する機械に成長させながら、世界の研削盤市場の中で約3割を占める同市場の開拓を一層進めていきたいと考えています。また「汎用機の強化」では、「Vertical Mate®シリーズ」が受注台数の4割ほどを占めるまでに成長しており、国内・海外のお客様から高い評価をいただける機械に育っています。このような現状を踏まえつつ、「お客様のニーズに応えてさらなる進化した機械へ」という想いの下、消費電力削減などのリニューアルに着手しているところです(今年の展示会でリリース予定)。

そしてこれらの取り組みと並行し、現在鋭意進めているのが、「次世代型の大型立形複合研削盤」の開発です。当社は主力の立形研削盤として、「Vertical Mate®シリーズ」「CVGシリーズ」「NVGHシリーズ」を擁しているのですが、汎用機としての「Vertical Mate®シリーズ」とは違い、専用機と位置付けされる「CVGシリーズ」「NVGHシリーズ」への

お客様ニーズの選択が難しい場面があったのも事実でした。このような点を解消すべく、生産機種の統廃合という意味合いも含め、この度「CVGシリーズ」「NVGHシリーズ」を集約する形での新機種開発に至った次第であります。また、ただ単に2機種を集約するだけでなく、そこに次世代技術を取り入れた「太陽工機の新しいフラグシップモデル」として位置付けており、私自身、大きな期待を寄せているところでもあります。正式なリリースは来年の展示会を予定しています。

Q4 コロナ禍が明けて4年ぶりに開催した「太陽工機プライベートショー」の様子はいかがでしたでしょうか。

A 2023年11月9日～11日に本社工場で開催したプライベートショーでは、延べ約700名もの方々にご来場いただき、機械のデモ運転や、お客様との対話の中で課題の汲み取りを行うことで、多数の引合いを獲得することができました。また、今回のプライベートショーは、当社と同じくDMG森精機グループ傘下の倉敷機械株式会社のプライベートショーと同日で開催しました。同じ長岡に位置しているということで、期間中は双方のお客様の行き来もあり、新しいお客様との出会いの場となりました。

Q5 2024年度の見通しなど、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

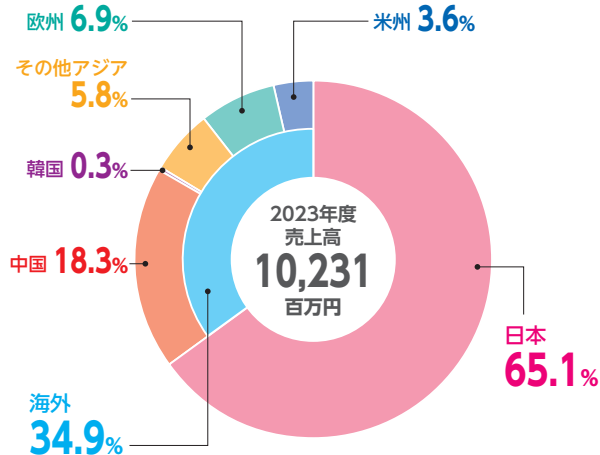
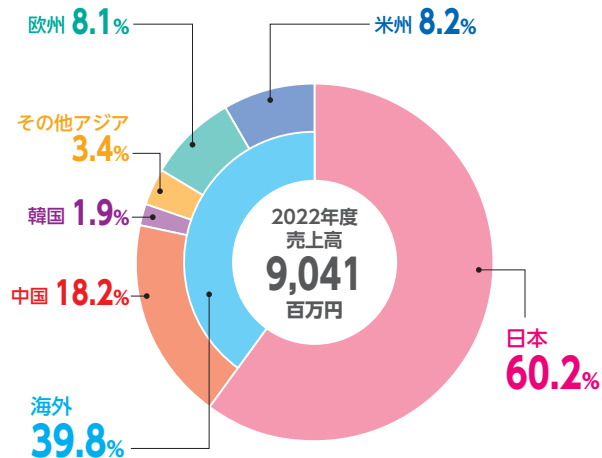
A 2024年度のスタートでは売上計画の約72%(約72億円)を受注残高として確保し、ほぼ全てが

2022年度に実施した2回の価格改定を反映済です。2024年度では、当社史上初となる2期連続しての売上高100億円台達成を果たし、営業利益率10%以上への回復を計画しています。なお、2023年10月に3度目となる価格改定を実施しておりますので、2024年度中に受注して売上する機械については、より一層利益面での効果が表れてきます。生産についても、社内工数の削減と平準化に取り組み、コスト管理の徹底を図ります。そして、株主還元としては、持続的かつ安定的な配当と継続的な増配を行うことを基本方針としております。株主の皆様におかれましては、当社のさらなる成長にご期待いただき、今後とも末長くご支援を賜りますようお願い申し上げます。

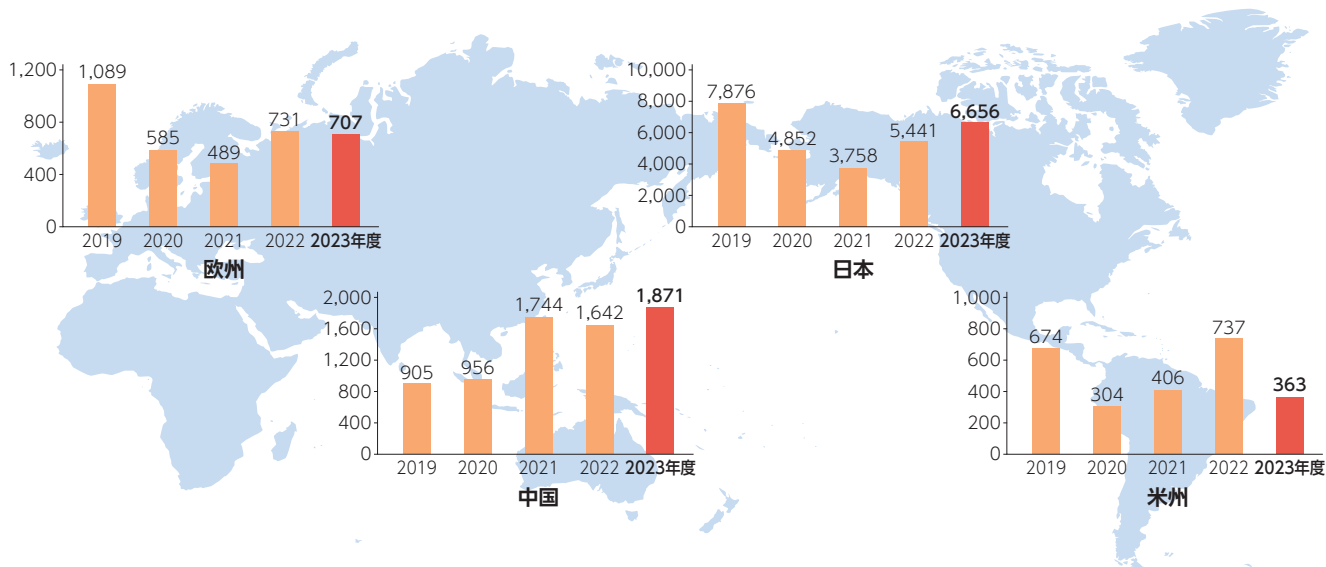


事業概況

● 地域別売上構成比

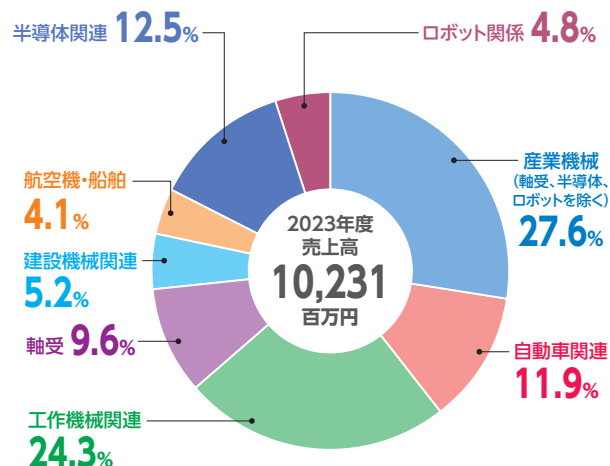
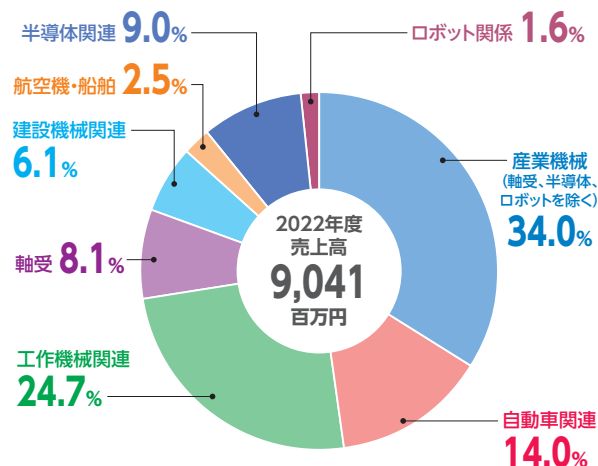


● 地域別売上高の推移 (単位:百万円)



(注) 金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

● 業種別売上構成比



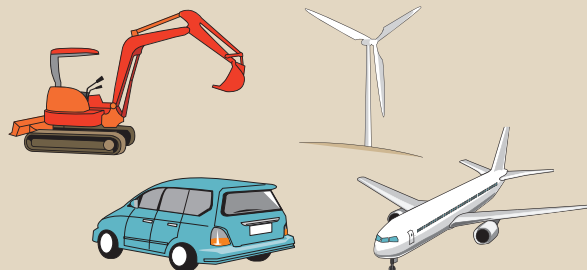
立形研削盤とは

立形研削盤は、部品を重力に対して垂直方向に回転させて加工する方式の研削盤で工作機械の一種です。当社がもつ独自技術により1989年に業界で初めて開発・製品化し、現在は主力製品として国内でトップシェアを占めています。加工する部品を垂直に設置するため、段取りが容易であるばかりか重力の影響を受けず加工精度に優れた特性をもち、工場内の省スペース化にも貢献します。



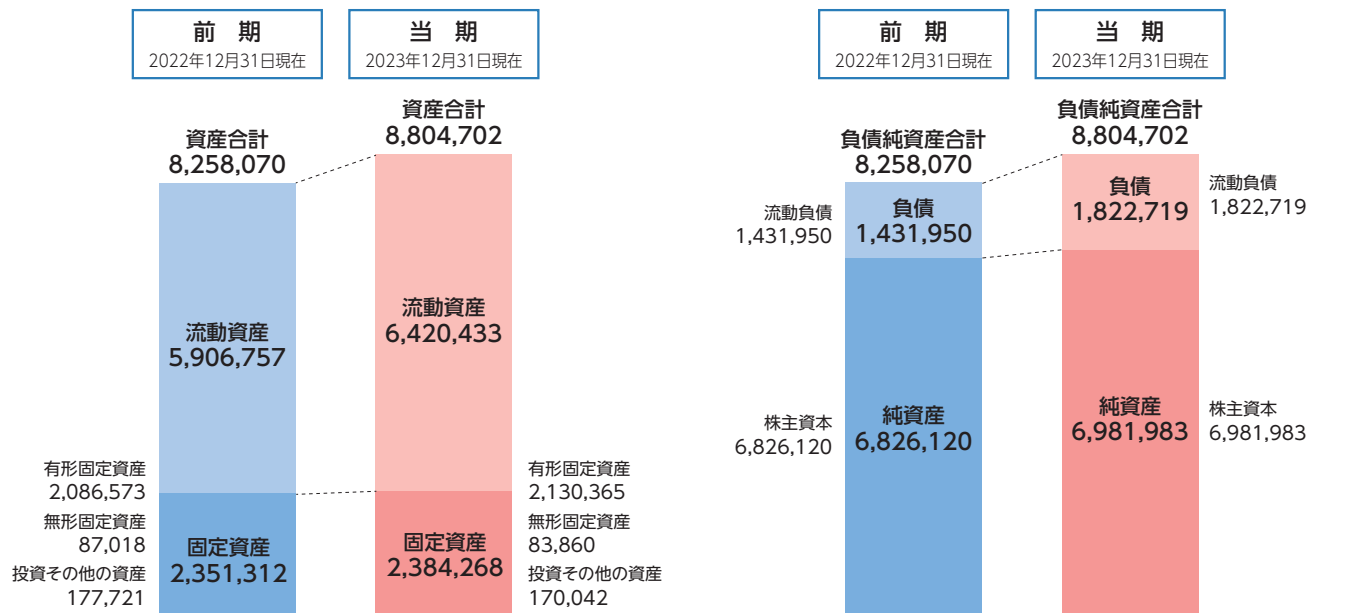
当社の研削盤が加工した製品は、
こんなところで使われています。

当社の研削盤は、自動車や航空機、建設機械におけるエンジン部品やシャフト、ベアリング、風力発電設備の変速機といった重要部品の加工に利用されています。0.001mm単位で要求される精度に応えて、低燃費の実現や振動の抑制などによる乗り心地、安全性、長寿命等品質の向上に重要な役割を果たしています。

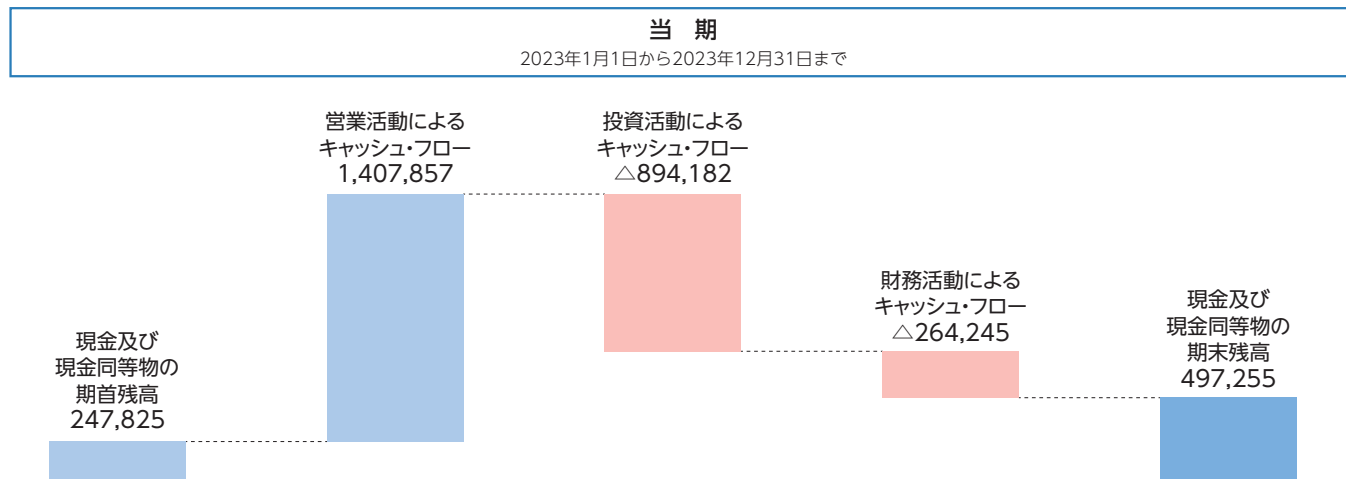


財務諸表

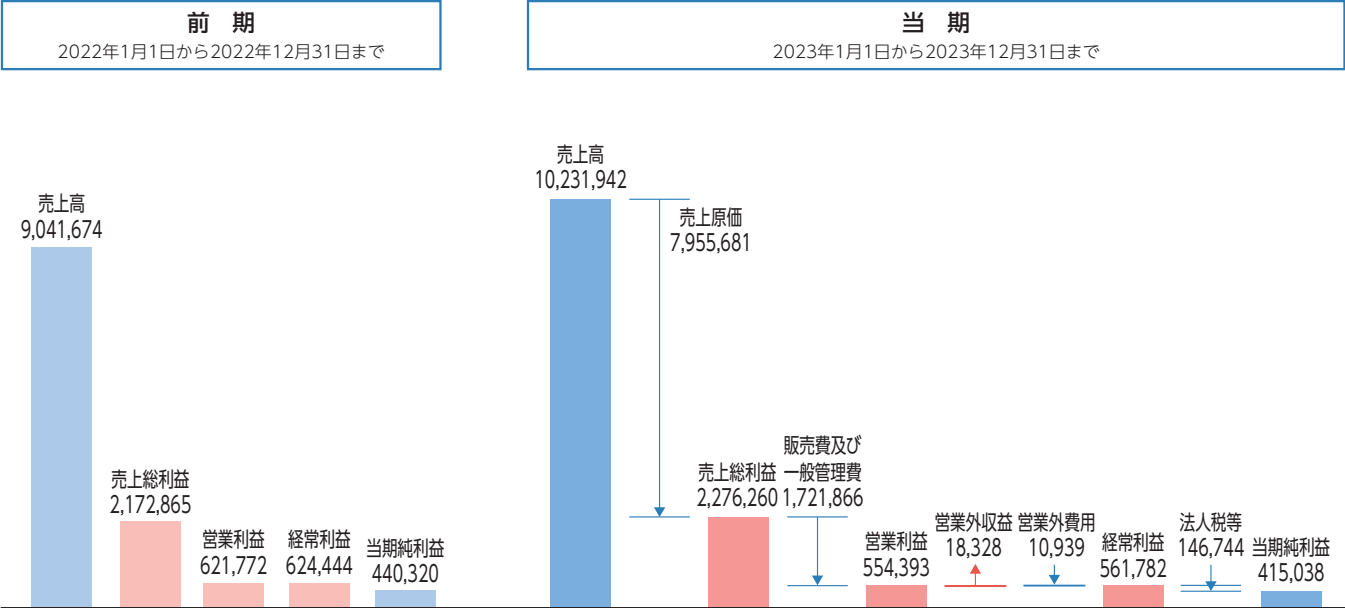
貸借対照表の概要 (単位:千円)



キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:千円)



損益計算書の概要 (単位:千円)



株主資本等変動計算書 (単位:千円)

当 期 2023年 1 月 1 日から 2023年12月31日まで	株 主 資 本								純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
					繰越利益剰余金				
当 期 首 残 高	700,328	387,828	146,079	533,907	5,688,017	5,688,017	△96,133	6,826,120	6,826,120
当 期 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当					△264,340	△264,340		△264,340	△264,340
自 己 株 式 の 処 分			272	272			4,891	5,164	5,164
当 期 純 利 益					415,038	415,038		415,038	415,038
当 期 変 動 額 合 計	—	—	272	272	150,698	150,698	4,891	155,862	155,862
当 期 末 残 高	700,328	387,828	146,352	534,180	5,838,715	5,838,715	△91,241	6,981,983	6,981,983

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

太陽工機プライベートショー2023開催

2023年11月9日～11日の3日間、当社本社工場において太陽工機プライベートショー2023を開催いたしました。2019年以来4年ぶりの開催となりましたが、約700名近いお客様にご来場いただきました。

本社でのプライベートショーは社外の展示会ではスペースの都合上展示することが難しい大型の立形研削盤を始め、超小型立形研削盤や円筒研削盤など約30台の幅広いラインナップを展示し、最新鋭の自動化システムのデモ運転などを実施しました。

また、当社営業スタッフやエンジニアが実機の前で詳しく機械の特徴やカスタム設計を説明し、お客様の需要の汲み取りや、今後の製品開発につながる貴重なご意見やご要望をいただきました。会期中には多くの受注・引合いを獲得することができました。



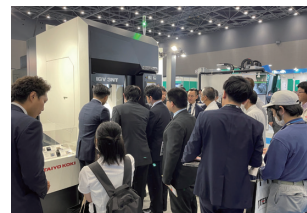
メカトロテックジャパン2023に出展

2023年10月18日～21日の4日間、名古屋のポートメッセなごやにて開催されたメカトロテックジャパン2023に出展いたしました。

当社からは、生産性とフロアスペースの効率化を極限まで追求した超小型立形研削盤に垂直多関節ロボットを融合させた次世代自動化システム「USG-2CL」を始め、高い汎用性を備えたベストセラーモデルの「Vertical Mate55」、コンパクト設計の「IGV-3NT」の全3機種を出展いたしました。

当社ブースには多数のお客様に来場いただき、特に自動化システムのついたモデルは多くのお客様から注目を集めました。

今後も当社は、お客様のニーズを捉えた製品を開発するとともに、国内外のお客様に当社製品を提供し続け、世界の製造業の発展に貢献してまいります。



新潟アルビレックスBB、Phoenix Robotsの活動を継続サポート

当社は今年度も、ともに新潟県長岡市を拠点としているプロバスケットボールチーム「新潟アルビレックスBB」、学生ロボット競技団体「Phoenix Robots」の活動を継続サポートする契約を結びました。両団体へのサポートを通じて、地域経済の発展・スポーツ振興・地域の技術力の向上に貢献してまいります。



会社の概要 [2023年12月31日現在]

Corporate Data

会 社 名	株式会社太陽工機 (TAIYO KOKI CO., LTD.)
資 本 金	700,328,200円
設 立	1986年3月14日
主な事業内容	工作機械(各種研削盤)の開発・製造及び販売
従 業 員	271名
ホームページ	https://www.taiyokoki.com
本 社 所 在 地	新潟県長岡市西陵町221番35
関 連 会 社	DMG森精機株式会社

役 員	代表取締役社長	渡辺 剛
(2024年3月27日現在)	取締役副社長	棚橋 基裕
	専務取締役	大石 賢司
	取締役	森 雅彦
	取締役	柿沼 康弘
	取締役	多賀谷 実
	常勤監査役	小林 秋男
	監査役	間瀬 宏
	監査役	宮沢 啓嗣
	監査役	森岡 正樹

株式の状況 [2023年12月31日現在]

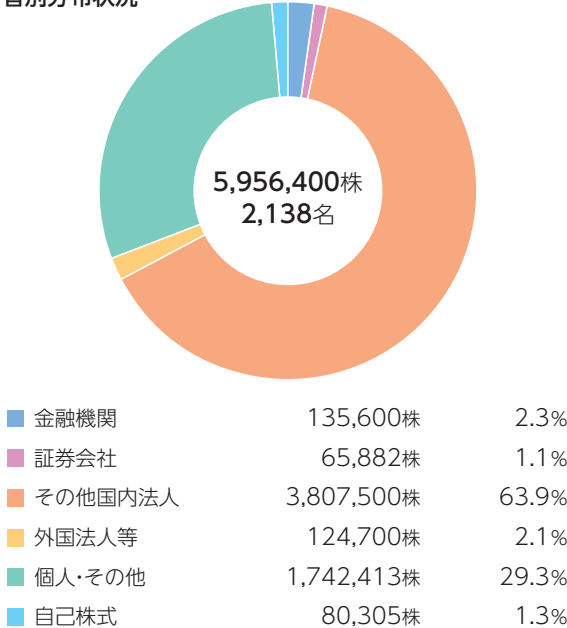
Stock Data

発行可能株式総数	18,000,000株
発行済株式の総数	5,956,400株
株 主 数	2,138名
大 株 主	

大株主(自己株式は除く)	持株数(株)	持株比率(%)
DMG森精機株式会社	2,988,000	50.85
株式会社渡辺	508,000	8.64
株式会社井高	216,000	3.67
太陽工機従業員持株会	191,688	3.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	133,400	2.27
佐々木 嘉樹	120,000	2.04
渡辺 登	100,000	1.70
神林 忠弘	69,200	1.17
渡辺 剛	44,800	0.76
MSIP CLIENT SECURITIES	43,000	0.73

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(80,305株)を除いて計算しております。

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金 受領株主確定日	12月31日
中間配当金 受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 TEL 0120-782-031（通話料無料）
同 連 絡 先	東京証券取引所スタンダード市場 電子公告により行う 公告掲載URL https://www.taiyokoki.com (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)
上場証券取引所	
公 告 の 方 法	



ネットワーク

<国内拠点>

本社・工場

〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-35
TEL. 0258-42-8808 (代) FAX. 0258-42-8810

東部営業所

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-340 ウノビル7階
TEL. 048-658-8701 FAX. 048-658-8702

中部営業所

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-35-16
(DMG森精機株式会社内)
TEL. 052-563-1270 FAX. 052-563-1310

西部営業所

〒564-0052 大阪府吹田市広芝町4-1 江坂・美貴ビル8階
TEL. 06-6378-7166 FAX. 06-6378-7167

<海外拠点>

中国（上海）

No.178 West Yindu Road, Songjiang District, Shanghai
201612, China
TEL. +86-21-6764-8876

アメリカ（シカゴ）

2400 Huntington Boulevard Hoffman Estates, Illinois 60192
TEL. +1-847-593-5400

ヨーロッパ

Antoniusstrasse 14, DE-73249 Wernau, Germany
TEL. +49-7153-934-0

Webサイトのご紹介

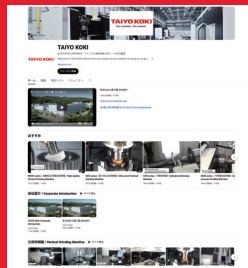
<https://www.taiyokoki.com>



当社ではWebサイトにて当社の企業情報を随時開示しています。製品情報や当社の取り組み等を掲載しているほか、IR情報のページでは決算短信等がご覧いただけます。



関連サイト YouTubeチャンネルのご紹介



関連サイトとして、当社のYouTubeチャンネルを開設しております。当社の会社紹介、立形研削盤を始めとした各種研削盤の加工動画等がご覧いただけます。

